

第8次 鷹栖町総合振興計画

— 笑顔 幸せ みんなでつくる あったかす —

第8次鷹栖町総合振興計画【概要版】
2020年3月発行
鷹栖町総務企画課

2020-2029



「この鷹栖・このまちが好き!」坂根玲子さん作
町制50周年記念 鷹栖町総合振興計画イメージ作品グランプリ

目次

第1部 序章 01

1. 計画策定の意義	01	2. 計画の構成	01
3. 策定方法	02		

第2部 基本構想 15

1. まちの将来像	15	2. まちづくりへの決意	16
3. 基本目標	17		

第3部 基本計画 18

計画の体系	18	人 基本目標1	20
暮らし 基本目標2	22	しごと 基本目標3	24
環境 基本目標4	26	交流 基本目標5	28

ごあいさつ

令和という新しい時代の幕開けと時を合わせ、鷹栖町は令和元年に町制施行50周年という節目を迎えました。まちづくりは新たなステージへ、第8次総合振興計画がスタートします。

今後10年のあいだにも、人口減少、少子高齢化、若者の流出など、人口構造の変化は急速に進み、本町を取り巻く情勢は厳しさを増すことが予想されます。また、国連サミットで採択された「持続可能な開発目標：SDGs」の理念である「誰一人取り残さない」社会の実現が国際社会において共通の目標として掲げられるなど、新しい時代の動きを的確に把握し、速やかに対応していくことが必要です。

これまでにない社会変化が訪れ、まちの力が試される時です。着実にまちづくりを前進するためには、他人ごとではない「自分ごと」のまちづくりへと意識を醸成し、町民の皆さんと行政、関係機関とが連携を深めて取り組んでいくことが何より大切です。この計画においても、「笑顔 幸せ」があふれるまちを未来へ引き継いでいくために、あったかすなまちを「みんなでつくる」という決意が示されています。共に考え、共に行動する「協働のまちづくり」をより一層力強く進めていくため、引き続きご理解とご協力をお願いいたします。

結びに、この計画の策定にあたり貴重なご意見やご提言を頂きました町民の皆さま、熱心に議論を頂きました策定委員会、町議会をはじめ、関係各位に深く感謝申し上げます。

2020(令和2)年3月

鷹栖町長 谷 寿男

I-1. 計画策定の意義



総合振興計画は、長期的なまちづくりの方針や将来像、その実現のための手段などを、総合的、体系的に示すもので、自治体の最上位計画です。鷹栖町では昭和38年以降、これまで7次にわたって総合振興計画を策定し、計画的かつ戦略的にまちづくりを進めてきました。

平成から令和へと時代がひとつの区切りを迎え、本町においても昭和44年の町制施行から半世紀を経て、次なる50年へと新たな歩みを進めるときです。

第8次鷹栖町総合振興計画は、これまでの計画の成果を引き継ぐべきはしっかりと継承し、新たな時代の流れや鷹栖町が抱える課題に対応した、将来にわたって持続可能なまちづくりを実現することを目指した計画です。主役である町民と支える行政とが共通の将来像を描き、ともに歩みを進めることで計画をより実効性のあるものとするため、策定段階から町民参画のプロセスを重点として進めました。この計画は、町民の暮らしの質を高めることを追求し、鷹栖町で生活する一人ひとりが幸せを実感できるようなまちづくりを進めるための指針となるものです。

I-2. 計画の構成



(1) 基本構想

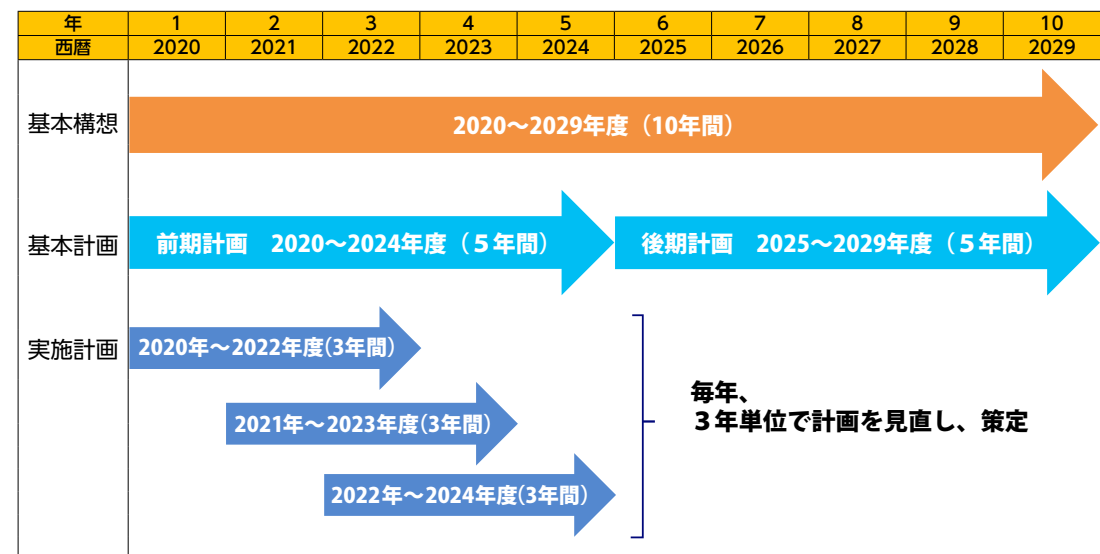
まちづくりの理想像と基本となる考え方を明記し、それを実現するための分野別の方針を示します。

(2) 基本計画

「基本構想」を実現するための取り組むべき内容として、施策の基本的方向を示します。「基本計画」は、社会情勢等を踏まえ5年後に見直しを行います。

(3) 実施計画

基本計画を実現するための個別事業を明らかにし、予算編成の指針ともなるもので、別途定めます。実施計画は、3年単位で策定し、毎年見直しを行います。



計画の構成と期間

I - 3. 策定方法



本計画を策定するにあたっては、町民と行政が共通の将来像を掲げて、ともに進めるまちづくりを実現するため、町民の皆さんと創り上げる住民参加の策定プロセスを最重要コンセプトとして取り組みを進めました。「まちづくりに関するアンケート調査」のほか、住民団体等の皆さんにご協力いただいた「分野別ヒアリング」、さまざまな領域で全国的に活躍する講師から先進的な取り組みを学び参加者同士で思いや意見を共有する「まちづくりセミナー」、地区ごとや多世代など色々な形態で実施した「住民ワークショップ」を行いました。

(1) まちづくりに関するアンケート調査

▶有効回答数：471件（有効回答率 47.1%）

▶集計結果（要旨）

① 10年後の鷹栖町がどのようなまちになってほしいか（複数回答、回答の多かった4項目）

順位	項目	回答率
1	健康づくりや福祉が充実し誰もが元気に暮らせるまち	51.8%
2	安心して子どもを生み、育てやすい環境のまち	48.6%
3	災害や犯罪、事故が少ない安全なまち	39.5%
4	町民が互いに助け合い、支えるまち	32.5%

② あなたにとっての「豊かさ」とは（複数回答、回答の多かった3項目）

順位	項目	回答率
1	心も体も健康な状態	70.3%
2	円満な家庭、家族の幸せ	45.9%
3	家族や友人との関わりが充実していること	36.9%

(2) 分野別ヒアリング

鷹栖町内で活動する、各分野の担当者、代表者等を対象に、ご自身が関わっている活動の現状・課題・今後についてヒアリングし、意見・提案・提言等をいただきました。

▶対象者、ヒアリング手法：35団体41件、面談による聞き取りで実施

▶ヒアリング結果（おもなご意見を抜粋）

分野	意見・提案・提言内容
まちの将来	・鷹栖町で育った子どもたちが、帰ってきたいと思えるまちに。
産業	・多様性を受容することが大切。魅力につながる。 ・中心市街地、10年後を考えると危機感が大きい。
移住	・近所同士のつながりの強さが心地よい。見守ってくれている感じがある。
コミュニティ	・住民力が高いことは鷹栖町の強み。まちづくりの基盤がある。 ・身近な町内会が中心となって支え合う体制をつくるのが大切。
幼児教育 保育・子育て	・産前から小学校入学後まで一つの流れでつなぐ、包括支援センターのような役割が大事。 ・困り感がある子どもへの支援が大切。
学校教育	・鷹栖町の子どもたちはとても素直。幼い頃からの環境が素直さを育んでいる。 ・「18歳で成人になったとき、こんな子に育てるんだ」というゴールを、町全体の教育機関が一貫して共有できていると良い。
福祉	・高齢者が自身の健康や社会参加という価値観のために働く環境が作れると良い。

(3) まちづくりセミナー

地域の課題を地域の力で解決していくまちづくりを目指し、様々な分野で全国的に活躍する講師から先進事例や取り組みを学び、参加者同士で思いや意見を共有する「まちづくりセミナー」を全8回開催しました。また、町制施行50周年記念講演会を関連事業として実施し、先進的なまちづくりの取り組みを学びました。

2018年7月21日
徳野 貞雄 氏



「集落点検～他出子(たしゅつし)の多くは近場で暮らしている～」

2018年11月17日
山崎 亮 氏



「ふるさとを元気にする方法～住むまちのことは住む人が決める～」

2019年9月26日
荒木 秀夫 氏

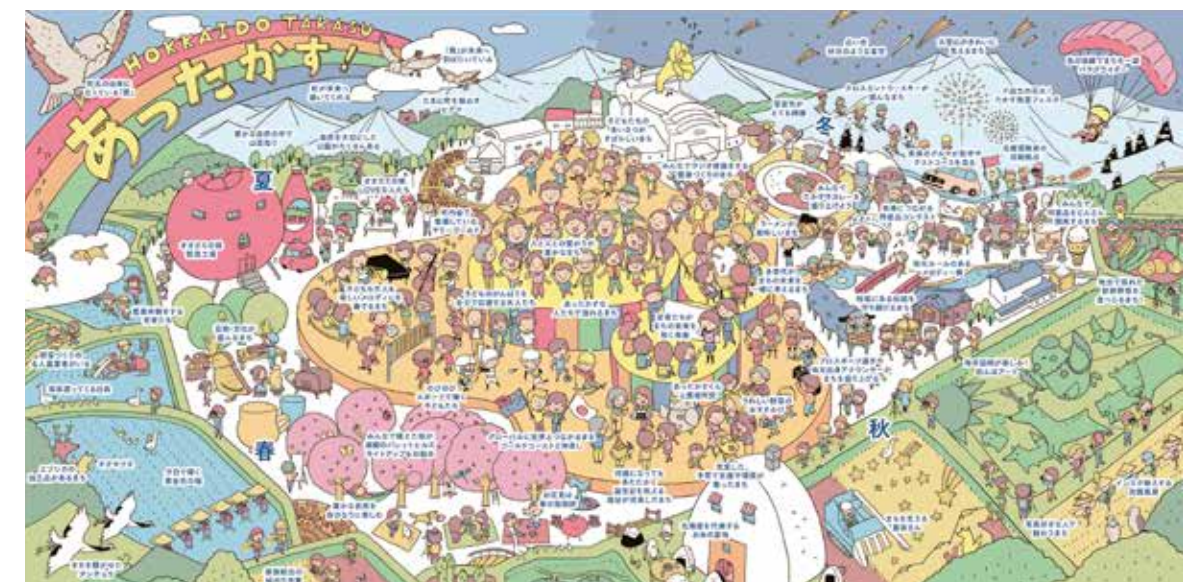


「脳力&能力アップ！で人間力を高めるまちをつくる」

(4) 住民ワークショップ

①たかす未来予想図ワークショップ（2018年8月・9月）

パレットヒルズを舞台に、小中高生など若者から子育て世代、シニア世代までがごちゃまぜで、「たかすの未来予想図を描こう」をテーマにワークショップを実施しました。第1回は、地域の魅力をあらためて見つめなおし、「まちの未来」に向けて大切にしたいことについて考えました。この時に出された意見を参考に、長さ4メートルほどの巨大なぬり絵「たかす未来予想図」を制作【下のイラスト】し、第2回はこのぬり絵に参加者みんなで色付けする作業を行いました。



②地区ワークショップ（2018年11月から2019年1月）

5つの公民館地区ごとに各3回ずつ、全15回のワークショップに取り組みました。「10年後どのような地区になってほしいか」「地域の資源探し」「地域ならではの理想の暮らし」などをテーマとして、地区のことやまちの未来について話し合いました。各地区での取り組み成果を、次のページからご紹介します。

鷹栖地区



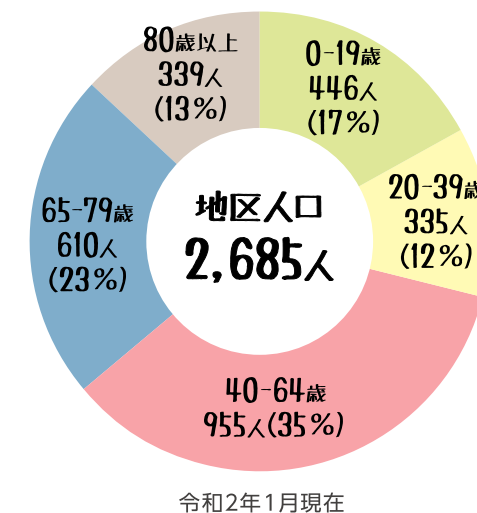
地区ワークショップで話し合ったこと

■10年後の未来の姿

- ・宅地を増やすのではなく、暮らしを大切に、自然と人が増えるまち。
- ・人とのつながりを大切に、地域で子育てを支える。
- ・コミュニティスクール&コミュニティタウン、住民自らの自助の力で地域づくりを進めよう。
- ・住民自らが鷹栖町の良さを認識し、伝えることで人を増やそう！
- ・10年後、子どもたちの声が身近で聞えるまちであってほしい！
- ・子どもの頃から町の良さを知る教育をして郷土愛を育む
- ・子育て世代と高齢者が、互いのちょっとした困りごとを解決しあう！

■地区のにぎわいを増やそう

- ・飲食店に看板メニューや個性があるように、それぞれにカラーがある多様なお店があることで中心市街地の魅力が高まる。
- ・子どもが安心して利用できるお店、気軽に立ち寄れるスペース。
- ・既存イベントもうまく活用して、日常の「心のにぎわい」につなげよう。大人が夢中になって楽しめるイベントを！
- ・今ある資源をどのように使うか、若い人たちが考え、努力していくことが大切。空き家や空き店舗の活用。
- ・単に「お店がほしい」ではなく、お店が持続しなければ意味がないので、住民参加のお店づくりで、住民とお店とが互いに支え合う責任を持つこと。



地区の魅力についてワークショップでのご意見

① 10線道路



道路沿いに様々なお店。
子どもたちの通学路として花壇が整備され、街頭やマンホールもかわいい。

風景

鷹栖町に住む前は気づかなかったが、実際に住んでみると、周囲の風景や静かで落ち着く環境が好になって、安心感がありとても暮らしやすい。ゆっくり過ごせる今の雰囲気を大切にしたい。

② 鷹栖地区住民センター

図書室なども充実して令和元年にリニューアルオープン。ここを拠点に活動する地区公民館は、住民参加の意識を高めて、住民自らによる地域づくりを進めていきたい。

人

- ・音楽、読書、海外在住の経験などを生かして子どもたちの教育をサポートしてくれる人材がいる。
- ・地域サロン活動など支え合いが強い大成町内会。



③ 郷土資料館

全道で2つしか展示されていない木管など、貴重な資料が数多く展示されている。先人の努力で今の鷹栖町がある、歴史を知ることが大切にするべき。子どもたちに伝える機会など、工夫して活用すべき。

子ども体験教室の新たな企画で、郷土資料館の謎解きイベントを実施しました。

北野地区



地区の魅力についてワークショップでのご意見

① 北野地蔵

鷹栖橋のもとにある地蔵。大正11年の冬にこの地で、通学途中の児童が落水するという悲しい事故があったことから建立されたという。今の子どもたちにも由来をきちんと継承したい。

新鮮野菜直売

地区にあるスーパーのDa・マルシェや、ぬくもりの家えんで、地域のお母さんたちが愛情込めて育てた新鮮野菜の直売がある。

② 地域サロン・地域食堂

多世代や多様な方が交流を深め、つながる拠点。北野地区は暮らしを充実する施設が整っている。

人

文化や音楽、人形劇など一芸を持った方がたくさんいる。子どもたちの教育や活動につながると良い。



③ 北野神社(北野獅子舞)

鷹栖町無形文化財。明治31年に北野神社が建立されたときに奉納された。富山県にルーツを持つ。胴体に入る人数や笛太鼓の囃子が魅力的。

地区ワークショップで話し合ったこと

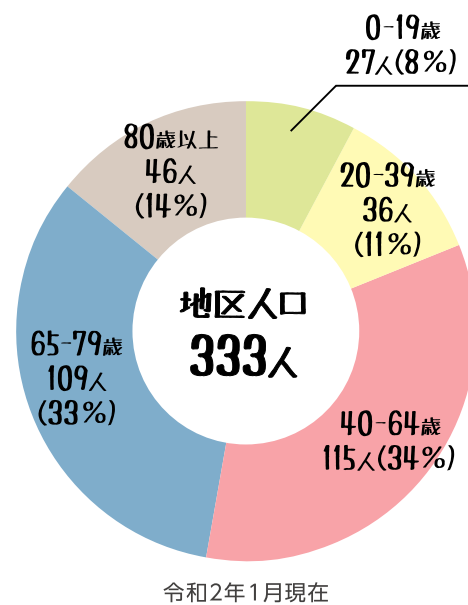
■ 10年後の未来の姿

- ・地域の人が楽しく交流できる地域に。
- ・顔を合わせて、つながりを大切にしたいまち。
- ・各世代が役割を持って支えあえる地区。
- ・社会で活躍できる子どもたちを育てる鷹栖町！
- ・住宅地と農村地区とが、一体感を持って地域活動を進めてきた北野地区の特徴を生かして、つながりを強く住民活動を活発にしたい！

■ 理想の暮らし

- ・住んでいる町民の満足度を高めることが何より大切。
- ・公民館活動は暮らしを充実させるキーワード。
- ・地域づくりの担い手を育成することが必要。
- ・参加するだけでなく、子ども自身が企画して実現するイベントを地域の大人でサポートする。
- ・地域と行政とで連携して子育て環境を充実し、魅力あるまちにする。
- ・子育てがひと段落した頃に、何かにチャレンジしたいという夢を実現するための支援や環境があると良い。
- ・びんぴんころりを目指して、身近に畑がある環境を生かした農作業や、ウォーキングでの健康づくりを楽しむ。
- ・シニア期にはこれまでの人生経験を生かして「子育てデザイナー」「起業デザイナー」などとして、社会的役割を担いたい。

中央地区



地区ワークショップで話し合ったこと

■10年後の未来の姿

- ・将来も住み続けたいと思う住み心地の良さが中央地区にはある。今ある魅力を大切に、未来を考えていく。
- ・移動や交通などの地域課題を解決するシェアリング(共有・交換)のまちづくり。
- ・食や農、景観を生かして人が訪れる魅力ある地域にしたい。
- ・田園風景、黄金色の農地(稲作)を守りたい。
- ・施設野菜の農業も普及して、農業が元気な地域に。
- ・農業者と非農業者がうまく共存できる地域。

■理想の暮らし

- ・公民館行事は全世代が参加して、つながる地域。
- ・おいしい野菜や様々な名人がいるので、地区の資源を生かして子どもたちに伝承する、様々なふるさと体験を子どもたちに提供。「将来戻りたい」と思ってもらえるように地域一体で子どもを育む。
- ・農業でしっかりと生計がたてられる。
- ・消防団と地域住民とで、一緒になって防災のことを考えて地域力を高める。
- ・視野を広げるため1度町外に出て、学んだことを鷹栖町に戻って生かしてもらおう、Uターン者歓迎!
- ・地域として持続するためにも、子どもたちや若い世代を含めた多世代で支え合う地域でありたい。

地区の魅力についてワークショップでのご意見

① 伝承館

大正初期に建てられた町内の古民家を移築して、趣ある佇まいの室内で、鷹栖町産大豆を使った手づくり豆腐の料理を楽しむ。

景色

大雪山の眺望など、景色が良いところが多い。大雪の園には散策林もあり、景色を生かした散歩コースが魅力となる。

② 旧鷹栖第二中学校

かつては冬季間に遠方から通う子どもたちが寝泊りする寄宿舎もあった。現在は旧体育館を大型の郷土資料を収蔵する郷土資料館として活用している。

人

ものづくり(陶芸、車いす、雑貨など)や登山、トマトやきゅうりなど野菜づくりの名人が地区に多い。

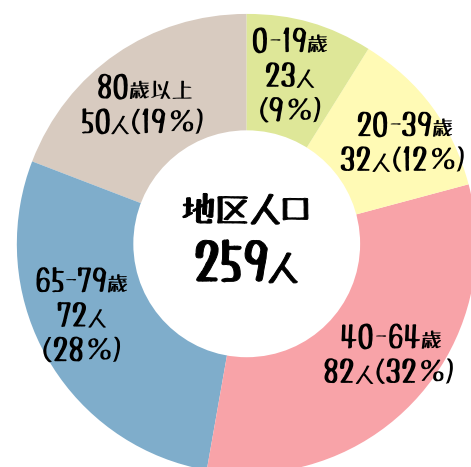


③ パレットヒルズ(蛇山)

昔はよく子どもたちでスキーに行き、頂上付近にせり出した大きな岩を目印に上って、そこから滑っていた。

地域おこし協力隊で、目印だった大きな岩を探し、発見しました!

北斗地区



令和2年1月現在



地区の魅力についてワークショップでのご意見

①とわ北斗

鷹栖町の特産品を数多く販売する“道の駅的な存在”。再生家具工房と食堂も併設する。

食

北斗地区は、かねてから「食」をキーワードに地域づくりを進めてきた歴史があり、料理コンテストも行っていた。今も地域には、農産加工施設「四季の里」やワインぶどうづくり、飲食店などの食資源が多い。

景色

大雪山を見渡す水田風景、夕日を浴びての農作業など、北斗地区は写真撮影に訪れる人が多い、農村ビュースポット！

人

地区の人は「北斗愛」に溢れてよく気が合う、チームワークがある！



②公民館

「祭り乙女」「島中一座」など魅力的な人の支えで公民館行事がとても盛り上がる。「子どもの声が聞こえると地域が元気になる」と、子ども縁日など地区外からも子どもが参加しやすい工夫をしている。

地区ワークショップで話し合ったこと

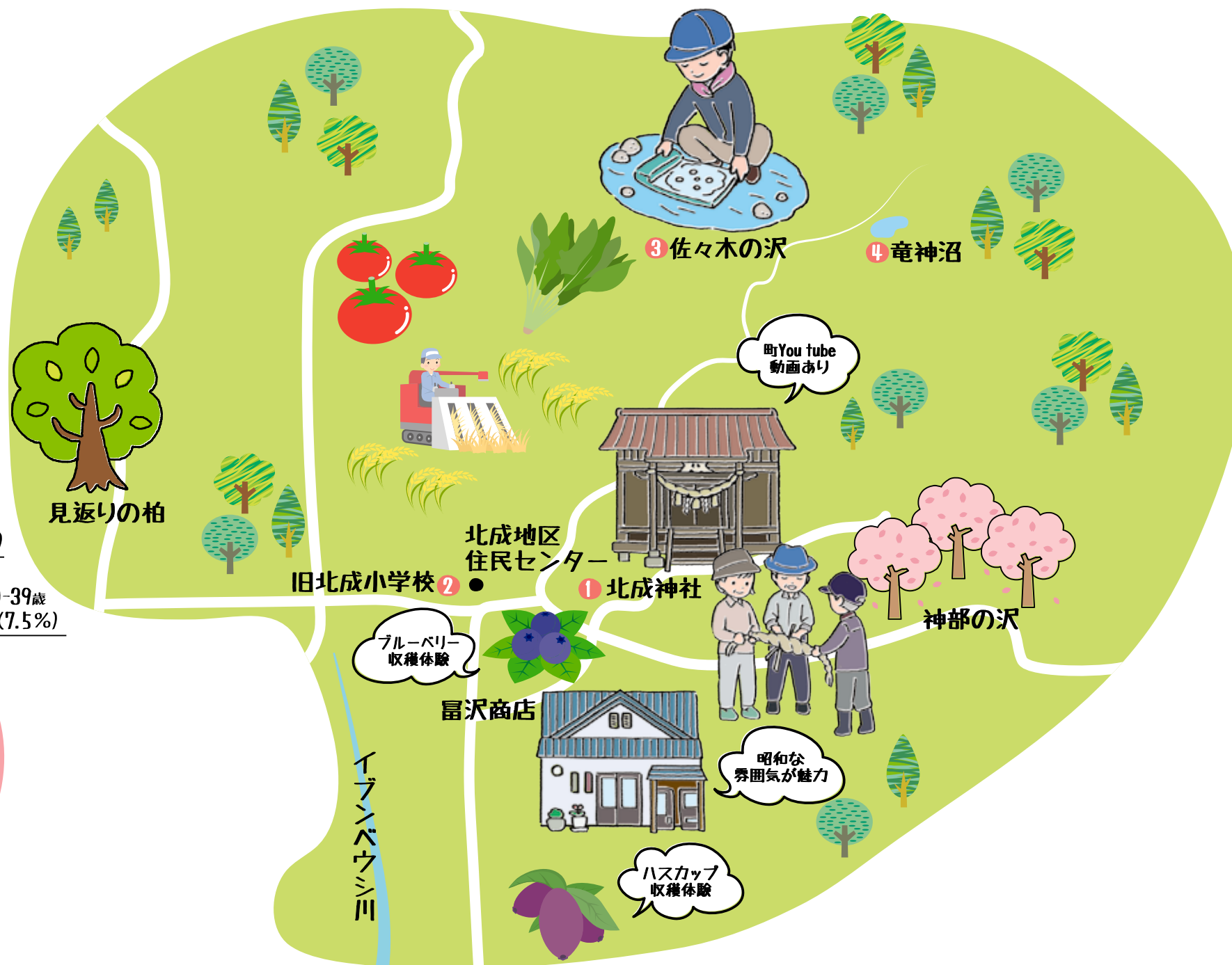
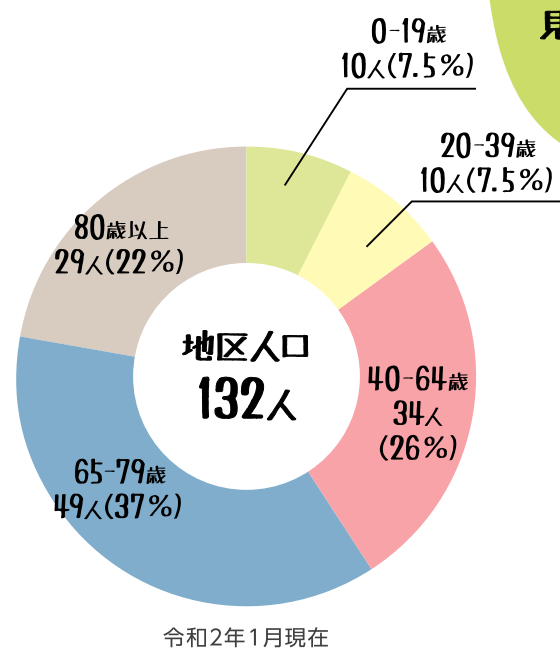
■10年後の未来の姿

- ・住みなれた地域で元気に暮らし続ける。不便になったから街に出て行けではなく、どうしたら地域で元気に暮らせるかを自分たちで考えていく。
- ・若い人も高齢者も働き続けられる場所がある。
- ・子どももシニア世代も元気に過ごす、今以上につながりが強い地域で充実した毎日を実現。
- ・北斗の強み「団結力・行動力・和気あいあいとした雰囲気」を維持。
- ・新たに人が来る魅力ある地域。

■理想の暮らし

- ・公民館行事は北斗地区以外からの参加も大歓迎なので、色々な地区から参加して盛り上げてほしい。子ども縁日など取り組みを工夫している。
- ・子どもは少なくなったが、子どもが楽しめる資源はあるので遊びに来てほしい。
- ・若い世代が子どもをきっかけに公民館活動に参加して、将来の地域の担い手として地域の活動を支えてほしい。
- ・若い世代とシニア世代とが混ざり合い、互いに支え合いながら暮らすことのできる住宅環境が実現すること。
- ・農業をずっと続けながら、プラスアルファ、誰かの役に立つことをして地域で過ごしていきたい。
- ・公民館(地区住民センター)を拠点としたサロン、介護予防。
- ・交通などの不便も地域の「団結」で解決していきたい。

北成地区



地区の魅力についてワークショップでのご意見

① 北成神社

毎年9月のお祭りに合わせて、町内会が輪番で、地域の稲わらを使ったしめ縄をつくっている。

④ 竜神沼

かつてはお祭りが開催されていた。「見返りの柏」や「馬頭さん」「別れの井戸」などとあわせて、神秘的な要素が点在しているのも地域の魅力。

② 旧北成小学校

高台から望む風景は最高。夜の星空もとてもきれい。

人

人のつながりが強い！歳を重ねても元気！野菜づくりや漬物づくりはみんなが名人！

③ 佐々木の沢(砂金掘り)

かつて砂金が出ることで有名だったといわれる佐々木の沢。

当時の地域を知るために、2019年に砂金掘り体験イベントを実施しました



地区ワークショップで話合ったこと

■ 10年後の未来の姿

- ・おいしいお米がとれる地域の水田を次の世代に渡していく。
- ・地域特性を生かした低農薬の野菜づくりなど、多様な農業基盤のある地域として確立。
- ・お米、野菜、ブルーベリーなどを生かして、30年後に最も農業基盤が充実した地区にしたい。
- ・地域に溶け込む若い人と一緒に、元気な農業を維持する北成。
- ・互いに気遣いできるつながりを生かして、安心して暮らせる北成。
- ・若者との交流促進による元気な北成。

■ 理想の暮らし

- ・「農業体験+きれいな星空観測」という北成オリジナルの体験を通して、子どもたちに地区の良さを感じてもらいたい。
- ・小学生の子どもたちから「こんにちは」とあいさつをしてくれたことは、本当に感激した。鷹栖町の教育の素晴らしさで、いつまでも大切に続いてほしい。
- ・農業だけでなく、地区の資源をすべて生かして、地域全体でひとつの商社を経営するイメージで、魅力あるしごとをつくり、定住につなげる。
- ・仕事以外で地域のつながりを深めて、暮らしを充実したものに。みんなが仲良く元気に住み続けたい。
- ・周囲を山に囲まれ、水田が広がる、自然豊かな北成地区の景色は、ふるさと感じさせてくれる、ホッとする気持ちを与えてくれる特別なもの。
- ・デザイナーなど若者が、新しい地区の姿をデザインしていくことも面白い。

③鷹栖町の未来をつくる会

住民ワークショップの取り組みの総まとめとして、特に重要な視点や課題を導き出すことを目的に、約50名の方に参加いただいて開催しました。移住者や町内で活動する方の対談、福祉分野で先進的なまちづくりを進めている事例の講演なども企画し、学びを深めながらグループワークでの議論を進めました。

第1回



▶開催日 2019年1月30日

▶内容

- (1) 鷹栖町に関する基礎的な情報の共有
- (2) 町民対談
(登壇者) 大河原七生氏、佐川美由紀氏、平林悠氏
- (3) ワークショップ
「鷹栖町での暮らしと仕事」

第2回



▶開催日 2019年2月13日

▶内容

- (1) 鼎談「まちづくりは自分ごと」
波瀾幸敏氏(鷹栖町、社会福祉法人さつき会)
大原裕介氏(当別町、社会福祉法人ゆうゆう)
- (2) ワークショップ
「10年後の鷹栖町をこんなまちに! ~今から私にできること~」

第3回



▶開催日 2019年3月20日

▶内容

- (1) 話題提供「自分ごとのまちづくりの進め方」
五十嵐智嘉子氏(札幌市、北海道総合研究調査会)
- (2) ワークショップ
「10年後の鷹栖町~目指す姿のキャッチフレーズを考える~」

未来をつくる会で提示された「10年後の鷹栖町」をイメージしたキャッチフレーズ

- 毎日帰りたい いつか帰りたい My Home Town あったかす
- わくわくを自給できるまちづくり (おすそわけ)
- ルーバンあったかす
- こんなところにあったか すごいマチ
- もれなく幸せ♡あったかす
- たかすびと 総活躍!
- たかすびと プライド
- おかえりなさい あっ! と home みんなで創る 米 たかす

II-1. まちの将来像



住民力・地域力を活かした「あったかす」なまちづくりは、町民の取り組みの積み重ねにより、この町の基盤となりつつあります。この強みを将来にわたって大切に継承しつつ、鷹栖町の良さや資源をもっと輝かせる「継続と前進」で、未来にわたって持続可能な次の鷹栖町をもう1度創り上げる10年間としていきます。

人口減少が進む今後の10年間において、住民主体のまちづくりの重要性は一層高まっています。ワークショップの開催などを通して、私たちは、都会や周囲と比較して「ないもの」を嘆くのではなく、足元の暮らしや資源を見つめなおし、「今ある」幸せや豊かさを再認識し、大切にしたいと気づきました。

まちづくりへの思いを次の言葉に凝縮し、今後10年間のキャッチフレーズとします。

◆まちづくりのキャッチフレーズ◆

笑顔 幸せ みんなでつくる あったかす



『笑顔 幸せ』

これまで積み重ねた、一人ひとりの「笑顔」を大切にするまちづくりを持続して一層高め、誰もがもれなく「幸せ」を実感できるまちを目指したい。このまちに生まれる一つ一つの笑顔が、つながって輪となり広がることで、すべての人が幸せに包まれるまちを実現したい、という思いを込めています。

『みんなでつくる』

「笑顔」にあふれ「幸せ」を実感できる暮らし。それは他人任せで誰かがつくってくれるものではなく、町民や団体、行政など、それぞれみんなが意識を持って関わり合って創り上げていくものだという決意を、「みんなでつくる」という言葉に込めています。

『あったかす』

たくさんの「笑顔」が広がり、「幸せ」にあふれるまちを、「みんなでつくる」。その先には、町民一人ひとりが「このまちで暮らして良かった」と、「あったかす」を心から実感できる未来があるはずです。

鷹栖町は、あらゆる立場の町民、子どもからシニア世代まで一人ひとりの暮らしの希望を追求し、幸せを実感できる地域社会の実現を目指します。

Ⅱ－2. まちづくりへの決意



まちづくりとは、このまちに暮らす人の日常づくりです。未来に向けて日々の暮らしをより良いものへと創り上げるためには、「このまちに暮らす人が主体となって関わること」「町民と行政とが将来像を共有して寄り添いながら歩みを進めていくこと」が必要です。

私たちは次のとおり決意して、社会の変化に適応する10年間のまちづくりに取り組んでいきます。

（１）町民の決意 「まちの未来＝自分の未来 まちづくりを我がごととして捉えます」

このまちに暮らす人の日常をつくっていく（＝まちづくり）とき、主体となるのは、まちに暮らす人＝町民です。人口減少と少子高齢化によって担い手が少なくなるなか、必要なサービスや機能を維持していくためには、一人ひとりの意識と行動によって、まちづくりへの参画総量を高めていくことが必要です。

町民一人ひとりが、まちづくりを「我がごと」として捉え、日常の暮らしをより良くするための行動を積み重ねます。小さな一歩であったとしてもできることから、その積み重ねが鷹栖町のまちづくりの大きなアクションへとつながります。

（２）行政の決意 「限られた財源を有効に活用し、資源を生かした創意工夫に取り組みます」

人口減少が前提となるこれからのまちづくりにおいては、その変化を正しく捉え、持続可能なまちの姿として未来の世代へバトンを受け継いでいくことが求められます。一方で、「（お金が・人が）ないからできない」ではなく、地域の資源に目を向けて、「こうすればできる」と、より一層の創意工夫によって地域の創生を進めていく姿勢が不可欠です。

現在の町民はもちろんのこと、未来の世代の町民の人生にも寄り添い、大きな時代の変化のなかで、これまで以上に財源の効率的な活用を心がけ、創意工夫によるまちづくりに取り組みます。

（３）連携の決意 「町民と行政、団体、民間組織など、チームで新たな風をおこします」

まちづくりへの参画総量を高めるためには、個々の活動を単に足していただくだけではなく、掛け合わせる「かけ算」によってその力を高めていくことが必要です。住民活動やNPO、企業、域外に住みながらまちづくり活動に関わる「関係人口」など、これまで以上に官民連携の視点をもって、あらゆる知恵や力を結集して、まちの魅力を高めていく姿勢が求められます。鷹栖町の目指す姿や魅力をチームとして共有し、共働していくことで、まちに新たな風を起こせば、その姿に共感した新たな担い手の参画も期待できます。

あらゆる関係、つながりを生かし、オール鷹栖で課題の克服に取り組む連携の視点を大切にします。



Ⅱ－3. 基本目標



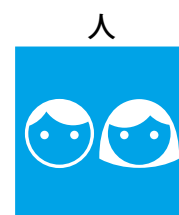
町民がまちづくりを我がごととして捉え、町民と行政とで一緒になって取り組みを積み上げていくためには、町民にとってイメージがしやすい、わかりやすい計画とすることが大切です。

そのため、ワークショップなどの取り組みにおける町民意見から、町民の日常の暮らしにひもづく5つの視点を抽出しました。そして、その視点ごとに、関連する町民意見を集約化していくことで、それぞれの基本目標へと導きました。

鷹栖町の将来像を実現するために、以下の5つを基本目標とします。

視 点

基 本 目 標



▶あらゆる世代が幸せを追求する 人が輝くまち

あらゆる世代の町民が、それぞれのニーズに応じて学びと成長を実現でき、誰もがふるさとへの誇りと愛着を実感できる、人が輝くまちづくりを進めます。



▶あらゆる人の希望に寄り添う 幸せな暮らしを実現するまち

妊娠期から出産、子育て、子どもから高齢者まで、ライフステージのあらゆる場面で希望を叶えて笑顔で過ごせるまちづくりを進めます。



▶あらゆる地域資源を活かす 幸せなしごとをつくるまち

豊富な地域資源をあらためて磨き上げることで多様性のある力強い産業を構築し、すべての人が豊かな地域資源の恵みを実感できるまちを目指します。



▶あらゆる安心を未来へとつなぐ 幸せな環境を持続するまち

本町の魅力ある環境を守り育て、今この町に暮らす町民と未来のこの町に暮らす町民がともに、安心して生活を営むことができる環境を持続させていくという視点を持って、暮らしを支える基盤づくり、暮らしを豊かにする環境づくりを進めます。



▶あらゆる人が関係して高めあう 幸せな交流があるまち

小さきまがまに、あらゆる世代や立場の人が関わりあい、その活動が連なって大きな輪となるように、町内外につながりづくりを進めます。

III-1. 基本計画



■ 計画の体系





◆基本目標1◆

あらゆる世代が幸せを追求する 人が輝くまち

政策① 人間力を高める人づくり

01 地域ぐるみで魅力ある学校教育

▶目指す姿

地域や教育機関が一体となって子どもたちの充実した学びを実現する。

▶基本的な方針

幼児教育から高校卒業までを見据え、町のあらゆる教育機関が連携を強め、目指すべき教育ビジョンを明確に共有し、各校の特色を生かした教育活動を展開します。地域に開かれた学校運営を核として、家庭・地域・学校・行政が一体となって学びの環境の充実を図ります。あらゆる児童生徒の学びの希望に寄り添い、きめ細かな支援を実現します。



02 感性を育むふるさと共育

▶目指す姿

鷹栖町ならではの環境を生かした学びを通して、次代を担う子どもたちが感性豊かに自ら道を切り開き、郷土を誇りに感じて成長する。

▶基本的な方針

誰かに教わる教育ではなく、誰かと共に学び合い、関心を広げ、自ら探求する姿勢を育む「共育活動」を、ふるさと鷹栖をフィールドとして、地域の様々な団体や町民が一体となって推進します。鷹栖町ならではの資源を活用した教育活動を強化し、感性と社会性を育むコオーディネーショントレーニング【※1】を生かした教育実践を推進します。



◆主に関わりがあるライフステージ◆

子ども 青年・子育て世代 壮年 シニア

01 地域ぐるみで魅力ある学校教育

02 感性を育むふるさと共育

(施策は全ての世代に関わり、あらゆる皆さんの参画により進められるものですが、主に対象となる世代をわかりやすくするために整理したものです。)

政策②

ともに学び地域を育む人づくり

03 世代に応じて学び続けることが叶うまち

▶目指す姿

どの世代も生き生きと学ぶことができ、学んだ成果を暮らしや地域で生かして新たな価値を創造し、一人ひとりの人生が豊かになる。

▶基本的な方針

リカレント教育【※2】などのライフステージや多様なニーズに応じた学びの場の充実を図り、学習の成果を地域社会で生かすことのできる環境整備を進めます。公民館を地域の学びの拠点として位置づけ、地域課題に応じた学びと交流の場を提供するとともに、あらゆる世代が取り組む読書活動を支援します。

04 誰もが気軽にスポーツに親しめる場の提供

▶目指す姿

誰もが気軽にスポーツに親しみ、多様なスポーツ活動を通して地域交流や健やかな暮らしを実現する。

▶基本的な方針

あらゆる世代が気軽にスポーツに親しむことができる環境の充実に向け、施設の効果的な運営や既存団体との連携を進めるとともに、総合型地域スポーツクラブ【※3】の設立に向けて取り組みを進めます。町民の健康づくりを支援するとともに、子どもたち一人ひとりが望ましい体力を身に付けられるように支援します。

05 郷土の歴史と文化芸術を生かしたまちづくり

▶目指す姿

先人たちが築いた地域の歴史や文化を大切にし、盛んな文化活動が町民の心を豊かにする。

▶基本的な方針

たかすメロディーホールを町民が文化に親しむ拠点として運営し、団体や町民と連携を強め、文化芸術活動の一層の推進を図ります。まちの郷土資料を適切に保存し、地域の貴重な資源として様々な場面で積極的に活用するとともに、農文化、技術の継承を進め、その魅力を将来にわたって引き継ぐ取り組みを進めます。

【※1】潜在的な能力に刺激を与え、運動などを早く学習できるようにするための“学ぶ力”を得ることを最大の目的としたトレーニング。

【※2】社会人の学び直し

【※3】多世代、多種目、多志向という特徴を持ち、地域住民により自主的・主体的に運営されるスポーツクラブ。

◆主に関わりがあるライフステージ◆

子ども 青年・子育て世代 壮年 シニア

03 世代に応じて学び続けることが叶うまち

04 誰もが気軽にスポーツに親しめる場の提供

05 郷土の歴史と文化芸術を生かしたまちづくり

暮らし



◆基本目標2◆

あらゆる人の希望に寄り添う 幸せな暮らしを実現するまち

政策①

つながる暮らしづくり

06

希望を叶えるあたたかな出産・子育て支援

▶目指す姿

地域が一体となって子どもに寄り添い子育て世代を支え、子育て世代の希望が満たされるまち。

▶基本的な方針

認定こども園やNPO法人などと連携し、共働き家庭でも安心して子育てができる環境を整備するとともに、保育の質の向上に努めます。妊娠期から出産、子育てまで一貫して寄り添う「子育て世代包括支援センター」を設置するなど、地域一体となって子どもを温かな目で見守り、育む環境を確保するとともに、支援が必要な子どもたちに対しては、早期から継続して寄り添い関わる体制の整備を進めます。



07

一人ひとりが充実した暮らしを営むまち

▶目指す姿

一人ひとりが希望を叶え、社会的役割を持って活躍し、つながり高め合う地域共生社会【※4】の実現。

▶基本的な方針

生活福祉相談センターを核とした住民の困りごとに対する相談体制を継続し、困りごとを早期に発見して寄り添うためのアウトリーチ【※5】を強化します。課題を抱える人たちに対する住民理解と支え合いの仕組みづくりを進め、住みやすい環境をつくります。町民が気軽に集い、交流できる環境を整備するとともに、相互に関係し合って暮らしに笑顔を増やす、地域共生社会の実現に向けた取り組みを進めます。



◆主に関わりがあるライフステージ◆

子ども 青年・子育て世代 壮年 シニア

06 希望を叶えるあたたかな
出産・子育て支援

07 一人ひとりが充実した暮らしを営むまち

(施策は全ての世代に関わり、あらゆる皆さんの参画により進められるものですが、主に対象となる世代をわかりやすくするために整理したものです。)

政策②

生涯元気に活躍する暮らしづくり

08

生涯元気に活躍できるまち

▶目指す姿

高齢になっても住み慣れた地域で生きがいを持って、元気に豊かな生活を送ることができるまち。

▶基本的な方針

高齢期に積極的に地域と関わり、これまでに培ったスキルなどを生かして生涯活躍を実現できる環境を整備します。多様な主体が関わる地域包括ケアシステム【※6】を推進することで、高齢者の生活支援体制の一層の充実を図ります。地域住民同士の支え合いによる生活支援体制の整備を支援するとともに、介護サービス基盤の水準を保つことで、高齢になっても安心して暮らすことができる地域づくりを進めます。



09

みんなで主体的に取り組む健康づくり

▶目指す姿

「自分の健康は自分で守る」という意識を持って、誰もが楽しく健康づくりに取り組み、元気に充実した人生を過ごす。

▶基本的な方針

町民の健康を阻害している生活習慣病を防ぐため、「栄養」「運動」「休養」の視点を中心とした健康増進と、心の健康を保持するための支援に取り組みます。健康意識の醸成に向けて、各種健診の受診率向上や、幼少期から全世代を見据えた健康教育の充実に努め、誰もが楽しく健康な行動がとれる環境整備を推進し、健康寿命の延伸と健康格差の縮小を図ります。また、将来にわたって、安心して暮らすことのできる地域医療体制を確保します。



【※4】住民や地域の多様な主体が、世代や分野を超えて丸ごとつながることで、住民一人ひとりの暮らしと生きがい、地域をともに創っていく社会
【※5】積極的に対象者の居る場所に出向いて働きかけること
【※6】住み慣れた地域で自分らしい暮らしを続けることができるよう、住まい・医療・介護・予防・生活支援が一体的に提供される仕組み

◆主に関わりがあるライフステージ◆

子ども 青年・子育て世代 壮年 シニア

08 生涯元気に活躍できるまち

09 みんなで主体的に取り組む健康づくり



◆基本目標3◆

あらゆる地域資源を活かす 幸せなしごとをつくるまち

政策①

可能性あふれる農業を次代につなぐしごとづくり

10 未来へつなぐ明るい農業

▶目指す姿

資源を生かした多様な特色ある農業が地域の魅力を高め、稼ぐ農業の確立により活力あふれる農村を実現。

▶基本的な方針

農業生産基盤の強化と、担い手の育成、確保に努め、関係機関が一体となって持続可能な農業振興策を創出、展開します。女性農業者の一層の活躍や、特色あるチャレンジを積極的に支援します。地域資源や環境を最大限に生かし、多様性に富んだ農業を推進して、魅力と可能性を高めます。活力あふれる農村コミュニティを未来に持続するため、町内外の非農業者とのつながりを強化し、地域とともに地域農業の将来のあり方を研究します。



政策②

地域の魅力を高める豊かなしごとづくり

11 商工業の持続的な発展

▶目指す姿

商工業の魅力を高めてにぎわいを創出し、地域コミュニティに活力を生み出す。

▶基本的な方針

商工会と連携し、商工業者の支援を進めるとともに、経営意欲の高揚や後継者育成の取り組みを強化します。チャレンジショップ【※7】など新たな挑戦に取り組みやすい環境を確保し、町内での起業を積極的に支援します。空き店舗の利活用、買い物環境の整備などの取り組みを様々な方法で推進、支援し、エリアとしての価値を高めていくことで、地域コミュニティに活力を生み出す、にぎわいのある商店街を創出します。

◆主に関わりがあるライフステージ◆



(施策は全ての世代に関わり、あらゆる皆さんの参画により進められるものですが、主に対象となる世代をわかりやすくするために整理したものです。)

12 資源を生かした観光振興

▶目指す姿

「また来たい」「何度も訪れたい」と感じる、心を満たす観光と交流。

▶基本的な方針

広域ネットワークを生かしながら、鷹栖町ならではの農村資源や自然環境を生かした体験型・滞在型観光を推進し、地域に新たなビジネスを創出します。何度も訪れたい、リピーターの獲得につながる観光の実現を目指して受け入れ体制を構築し、鷹栖町ファンの増加につなげます。



13 地場産業の活力の創出

▶目指す姿

事業者間や産業間の連携が進み、まちの強みを生かして地域に根ざした持続性のあるしごとを創出。

▶基本的な方針

地場製品の魅力の向上と新たな産品開発に向けて、販路拡大の取り組みや事業者連携を支援します。地域の強みを生かした企業誘致や産業展開に取り組み、地場産業の価値を向上させ、雇用の場を確保します。

多様な働き方や就業ニーズに沿った雇用のマッチングを実現する仕組みづくりを進めます。また、町内産業や企業に対する町民理解を深め、地域のしごとに誇りに感じて応援する意識を醸成します。



【※7】 商売を始めたいが経験もなく、最初から独立店舗で始めることが困難な人に対し、行政や商工会議所などが家賃や管理費などを一定期間無償、または低額で店舗を貸し出す制度

◆主に関わりがあるライフステージ◆



環境



◆基本目標4◆

あらゆる安心を未来へとつなぐ
幸せな環境を持続するまち

政策①

生活の安心を支える環境づくり

14 自然環境と都市機能が調和した魅力あるまちの形成

▶目指す姿

豊かな自然環境と効率的に形成された市街地が調和し、おだやかで住み心地のよいまち。

▶基本的な方針

自然豊かな農村環境と生活しやすい都市機能が調和したまちづくりを継続します。既存ストックを生かした循環型の市街地形成を推進し、特に鷹栖市街地は、町の中心部として未来に魅力を持続する取り組みを強化します。将来を見通した適切な住宅整備方針を明確にし、社会変化に対応した公営住宅の管理と必要な整備を進めるとともに、町民の暮らしにうるおいを与える公園環境の整備を継続します。



15 安全で安心なまちづくりの推進

▶目指す姿

町民一人ひとりが安全、安心に対する高い意識を持ったコミュニティの形成。

▶基本的な方針

緊急時の情報伝達の円滑化を進めるとともに、地域の自主防災力を高めるため、組織の形成を支援し、活動の一層の充実を図ります。消防の広域化による連携力を活かして、警防体制の強化、増援体制の充実及び予防要員の育成を図るとともに、消防団員の確保に努めます。地域団体と連携して交通安全運動や防犯活動を推進します。また、消費者被害を防止するための体制を、引き続き整備します。



◆主に関わりがあるライフステージ◆

子ども 青年・子育て世代 壮年 シニア

14 自然環境と都市機能が調和した魅力あるまちの形成

15 安全で安心なまちづくりの推進

(施策は全ての世代に関わり、あらゆる皆さんの参画により進められるものですが、主に対象となる世代をわかりやすくするために整理したものです。)

16 生活インフラの適正な整備と管理

▶目指す姿

生活インフラが適正に整備、維持管理され、安心して快適に暮らすことができるまちを実現。

▶基本的な方針

安全な道路交通網を確保するため、戦略的に修繕、更新を実施するとともに、生活路線の円滑な除排雪に取り組みます。河川については、自然環境の保全に配慮したうえで、減災対策に資する適切かつ計画的な維持管理と改修に努めます。上水道は安全で安定的な供給のため、効率的かつ計画的に設備更新を行います。通信環境は民間と連携して充実を図ります。公共交通体系は民間路線バスの路線や便数の維持を要望するとともに、デマンドバスの運行を継続します。

政策②

美しい自然を保全する環境づくり

17 地域の豊かな環境の保全と自然エネルギーの活用

▶目指す姿

豊かな自然や地域環境を守り、うるおいや安らぎのある環境を未来へと持続する。

▶基本的な方針

持続可能な地域社会の実現に向け、未来に向けて町民一人ひとりが環境に配慮した行動を実践する環境保全活動を進めます。ごみの減量化とリサイクルを推進するとともに、再生可能エネルギー【※8】への転換を推進するため、継続して本町の地域特性を生かしたエネルギーについて研究します。

18 森林の公益的機能の維持増進

▶目指す姿

町内の森林全体が適切に管理・保全され、町民が身近にある森林資源の機能を理解し、関心を高める。

▶基本的な方針

町有林の適正な管理を進めるとともに、民有林も含めた町全体の森林の適正な保全を図り、水源涵養機能や自然災害の予防など、森林の公益的機能が将来にわたって維持増進するための整備を進めます。森林の持つ多様な機能をあらゆる場面で活用するため、町民が身近な森林に親しむ機会をつくるとともに、地域材のさらなる有効活用に向けた研究を推進します。

【※8】太陽光、風力その他非化石エネルギー源のうち、エネルギー源として永続的に利用することができると認められるもの

◆主に関わりがあるライフステージ◆

子ども 青年・子育て世代 壮年 シニア

16 生活インフラの適正な整備と管理

17 地域の豊かな環境の保全と自然エネルギーの活用

18 森林の公益的機能の維持増進

交 流



◆基本目標5◆

あらゆる人が関係して高めあう 幸せな交流があるまち

政策① 関係が連なり大きな輪となる交流づくり

19 住民参加と連携によるまちづくり

▶目指す姿

町民がまちづくりやまちの未来に関心を持って、地域の課題を地域で解決する取り組みが盛んなまち。

▶基本的な方針

住民組織による地域活動を支援し、地域の担い手となる人材の育成を進めます。さらに、新たな時代の地域運営のあり方として、地域の課題を地域自らで解決していく仕組みづくりを推進します。周辺自治体と連携して広域での課題解決を図るとともに、姉妹都市などの他地域自治体とも、多様なつながりを生かしたまちづくりを展開します。また、民間活力を取り入れた、官民連携によるまちづくりを進めます。



20 戦略的な情報発信

▶目指す姿

町民やまちに関わる人が、まちづくりへの理解とまちへの愛着度を深め、それぞれが自ら情報発信に取り組む。

▶基本的な方針

ターゲットにあわせて戦略的に情報発信するための方針をまとめ、広く様々なメディアを柔軟に活用しながら、まちの魅力や情報を効果的に、かつスピーディーに発信します。町内外それぞれへ効果的な情報発信を行い、相互に関係し合うことで、鷹栖町のブランドイメージの構築や、鷹栖町のファンを増やすことにつながるプロモーションを展開します。



◆主に関わりがあるライフステージ◆

子ども 青年・子育て世代 壮年 シニア

19 住民参加と連携によるまちづくり

20 戦略的な情報発信

(施策は全ての世代に関わり、あらゆる皆さんの参画により進められるものですが、主に対象となる世代をわかりやすくするために整理したものです。)

21 地域と調和する移住定住促進と関係人口の創出

▶目指す姿

鷹栖町のまちづくりと調和した移住や関係人口が広がり、人の流れや地域の活力に好循環が生まれ、町民の満足度が高まる。

▶基本的な方針

まちの暮らしと強みを磨き、「住む人の姿に共感し、新たに地域に関わる人が増える」という、人の好循環を生み出して、地域へ参画する総量を増やすための移住促進に取り組みます。空き家の流動化を促進し、多様な活用方策の検討を進め、人の流れの創出につなげます。域外に居住しながらまちづくりを応援してくれる人材との関係を強化し、地域課題にコミットする仕組みづくりを進めます。



22 持続可能な行財政運営

▶目指す姿

健全で効果的な行財政運営を実現し、住民ニーズに的確に対応した組織体制の構築により地域の元気や住民満足度が高まる。

▶基本的な方針

最小の経費で最大の効果を発揮するよう、選択と集中をより一層明確化し、効率的で効果的な行財政運営に取り組みます。将来世代に過度な負担を残さないため、公共施設などの適切な管理運営に取り組むとともに、将来の財政需要に対応する基金活用の方向性を定め、財政規律を堅持します。

行政職員の研修に取り組み、創意工夫によって地域の創生を進めていく人材を育成するとともに、ICT【※9】を活用した新たなサービスの展開により、質の高い住民サービスを提供します。



【※9】「Information and Communication Technology（情報通信技術）」の略で、通信技術を活用したコミュニケーションを指します。情報処理だけではなく、インターネットのような通信技術を利用した産業やサービスなどの総称。

◆主に関わりがあるライフステージ◆

子ども 青年・子育て世代 壮年 シニア

21 地域と調和する移住定住促進と関係人口の創出

22 持続可能な行財政運営